

いの流水俳壇

季題「新年、新春」

友草 水月選

〔評〕 恩師や友人、親しい方から年賀状を頂いたが、その方が不幸にも死亡されたのでこの賀状が絶筆となった。
処分をするには忍びないので、賀状を文箱に形見として残したのである。年賀状としては意外性があり、亡くなった方への思いやりと追悼の気持ちがよく出ていると思う。悲しいなどとは一言も言っていないが、文箱に残したと一点に絞ったのが成功している。

絶筆とは亡くなった人が生前の最後に書いた文字や文章、絵画などをいう。○紙漉の村の賀状和紙白し

山崎和賀流

初夢や目覚めて思い出せぬなり

〔評〕 夢は見たがどんな夢であったか思い出せない。夢を見ようと思ってもなかなか見ることが少ない。昔から初夢に見るとめでたいとされている順番が

「1富士、2鷹、3なすび」である。3番目のなすびがどうしてめでたいか分からないが（駿河地方の諺とも）、これらの夢を見ればその年の幸運が授かることとされた。せっかく見た夢は富士の夢だったかもしれない。

掲句は素直にそのとおり詠まれているが焦点がほしい。後の参考句を見ていただきたい。

初夢は2日の夜の夢をいうことが多い。昔は大晦日又は元日の夜ともいろいろな説がある。古夢を見たいため、枕の下に

宝船の絵を敷いて寝る風習もあった。○初夢の覚えのなきを吉とせり

川井 城子

大いなる山河に生きて年迎ふ

刈谷 志津

〔評〕 日本一の清流といわれる仁淀川。吉野川の源流瓶ヶ森や西日本最高峰の石鎚山系に囲まれ、その懐にある「いの町」に生きて今年もまた新しい年を迎えたという喜びである。スケールの大きい景色を捉えての句である。写生句ではなく概念的な句であるが「生きて年迎ふ」で生の喜びが伝わる句となった。

○注連縄の大黒柱年迎ふ

中村 苑子

足そろり入れて泣かせる霜柱

國田 貞子

〔評〕 霜柱といえは子どものころ道端や畑の中に入り、ギューと踏みつぶしてその音の感覚を楽しんだものである。最近温暖化のためか霜は見かけが霜柱はあまり見かけなくなった。掲句は童心にかえって霜柱を踏みつぶして楽しんでるのである。踏みつぶす音を「泣かせる」と詠んでいる。

霜柱は湿気の多いやわらかい土質に生じて、条件が良ければ氷柱が10センチにも成長する。

○霜柱はがねの声をはなちけり

石原 八束

二句抄

穏やかな顔の揃ひて初句会

岡村 嘉夫

子や孫に囲まれ美味し雑煮餅

川村 博子

初詣筈に幸運撓む程

春財布五円硬貨も然り気無く

まばらなる日の丸静か初景色

へついを知らない猫の日なたぼこ

今年も軍靴の音は不要なり

新春過ぎて峽に空家がまた二つ

平凡に無欲に生きる老の春

森岡 照月

加茂山に喘ぎ登りて初日の出

妻の身を案じ三所初詣

湧き水を汲みて帰りし初明り

リハビリに独り歩き初詣

新春や息子と共にいて良くねむれ

床の間に正月活けしお家流

初明り家の奥まで差し込みぬ

炒飯の湯気立つ厨淑気満つ

微笑みもそえて装ふ年新た

北よりのリンゴの初荷どっかりと

カレンダーめくれれば富士の初景色

行く春を近江の人と惜しみける

行く春を近江の人たちとともに惜しんだ。

「行く春を惜しむ」という言葉は四季のくつきりとした日本独特の感傷であり、古来あまたの詩歌にとりあげられてきた。その感傷を分かち合った人が「近江の人」であったことにより、琵琶湖など近江の湖水の情景が眼前に浮かぶ。そして芭蕉が好んで再々足を運び逗留した近江の友人たちとの親密な交流ぶりに思いが至る。その結果として「惜しみける」には、なんとも言えない寂寥感が偲ばれる。この句は近江湖南の門人と唐崎の湖上で舟遊びをして詠んだ句で、元禄3年芭蕉晩年の47歳の作品という。

芭蕉といえは「わび」「さび」「からび」の世界を思うが、芭蕉の近江という土地と新しい弟子への思いは極めて深いものがあつた。

次 題 「当季雑詠」

締め切り 毎月5日

投句先

教育委員会事務局

いの町1700-1

電話 893-11922

今月のごども川柳

あやという すてきな名前 大すきだ

伊野小 2年 岡田 彩

〔評〕 大人子ども全部含めて、自分の名前が大好きと言え人は少ない。お父さんやお母さんにしてみれば、幸せに生きてほしいとの願いを込めてつけた名前である。自分の名前を大好きと言いつつ小学2年生、今の気持ちを大切に成長してほしいと願うばかりである。

友だちは いっしょに遊ぶ たからもの

川内小 3年 西内 結音

〔評〕 子どもの数が少なくなった時代、友達の大切さが分かってくる。ある時には兄弟身内のように頼りあう一生の友達になる。たからものになる友達に出会うということは嬉しいことですね。

せんせいが いるときだけは みなしずか

枝川小 3年 村田 妃菜

六年間 勉強運動 がんばった

枝川小 6年 永野 はる音

冬の朝 出るのがいやだ ふとんから

川内小 5年 横田 大樹

保健室 しーんとしていて おちつくよ

枝川小 6年 中岡 桃香

六年生 下級生のお手本 がんばるぞ

枝川小 6年 岡崎 凜

人生で 大切なのは 友だちだ

川内小 3年 市川 あい

みかん食べ 手のひら黄色 冬が来た

川内小 5年 千田 美空

あきかせが いつもぼくらを はげますよ

川内小 3年 市川 あい

桜散り 別れの季節 さみしいな

伊野南小 5年 有岡 美咲

お正月 さいふの中が あたたかい

伊野南小 5年 津野 仁美

「ごども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。平成28年度初回提出締め切りは5月10日(火)です。皆さんからたくさん応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願いします。)

※選評は、川柳連会の皆さんにお願いしています。